

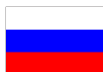
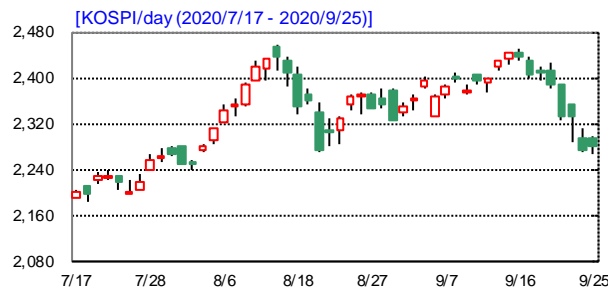


【韓国】 総合指数は週間で5.5%安と5週ぶり反落、今週は様子見ムード強まるか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で5.5%安と5週ぶりに反落。米株相場の下落や欧州の新型コロナウイルス感染再拡大への警戒などが投資家心理の重しとなった。週初の21日に反落して始まると22日は前日比2.4%安。国内で輸出額の回復、新型コロナ新規感染者数の減少といった好材料が伝わったが、外部環境の悪化で売りの勢いが強まった。さらに24日は米株安が嫌気されて2.6%安となり、終値ベースで8月3日以来、約7週間ぶりの安値をつけた。25日はハイテク大手を中心に買いが優勢となった。今週は9月30日-10月2日が秋夕連休のため休場。様子見ムードが強まりそうだが、引き続き米株相場や米中対立の動向には注意したい。国内の主要経済指標では29日に8月の鉱工業生産、10月1日に9月の貿易収支が発表される予定。

▼指数チャート

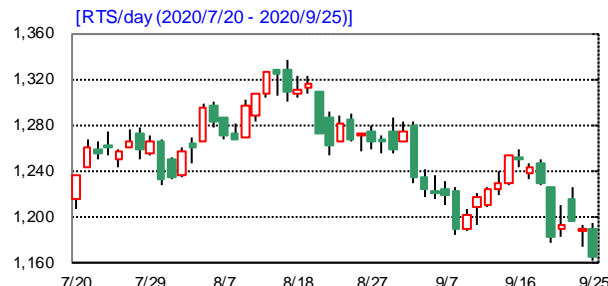


【ロシア】 RTS 指数は5.2%安と3週ぶり大幅反落、今週もコロナ再拡大が重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で5.2%安と3週ぶりに大幅反落。原油高、ルーブル安を受けて大幅安でスタートすると、コロナ感染再拡大による経済活動制限などで下げ幅を広げた。週明け21日はブレント原油が前営業日比で約4%下げ、ルーブルが対ドルで0.8%下落したことで、RTS 指数は3.9%安。原油相場の下落一服で22-23日に上昇したが、25日に2.0%安となった。欧州での新型コロナ感染再拡大や原油安、減配見通しのガスプロムの株価下落などが重しとなり、指数は5月中旬以来の安値水準で週を終えた。個別ではエネルギーのタトネフチ、ルスネフチ、ガスプロム、空運のアエロフロート・ロシア航空、産金のポリメタル・インターナショナルが大幅安となった。今週も世界的な新型コロナの感染再拡大が重しか。

▼指数チャート

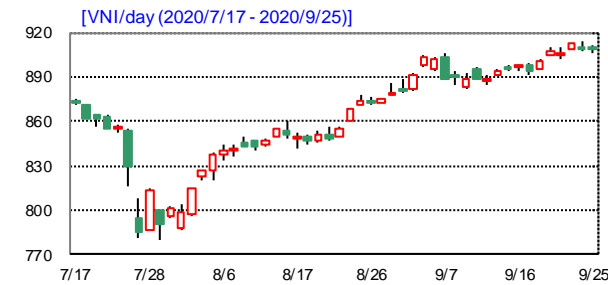


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.8%高と続伸、今週は底堅い展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.8%高と続伸。サコムバンクを筆頭に金融株が軒並み上昇し、指数を押し上げた。週明け21日は業績回復期待を背景に携帯・家電小売りのモバイル・ワールド・インベストメントに加え、金融株や不動産株が買われ、指数は前営業日比0.8%高と続伸。23日もモバイル・ワールドのほか、エネルギー、食品加工、金融などが買われ、指数は0.7%上昇した。指数は24日に一時914.51ポイントまで上昇し、2月24日以来の戻り高値を更新。週後半は上値の重い展開となったものの908.27ポイントと6日連続で900ポイントを上回って終了した。個別では、金融のサコムバンクが14.2%高と急伸し、HDバンク、軍隊商業銀行、ベトコムバンクも大幅高。モバイル・ワールドは6.3%上昇した。今週は底堅い展開か。

▼指数チャート



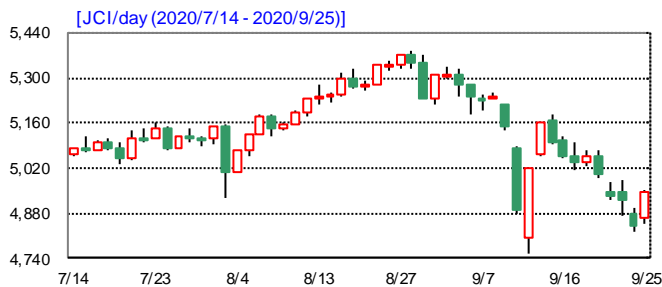


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.2%安、新型コロナウイルスの感染拡大を嫌気

ジャカルタ総合指数は週間で 2.2%安と反落。荒い値動きが続いた。21日は新型コロナウイルスの1日当たりの国内感染者数が前週末に4千人を超えたことなどが嫌気され、指数は前営業日比1.2%安と反落。22日も1.3%安と続落すると、23日は前日にムルヤニ財務相が今年のGDP成長率の見通しを下方修正した影響で売られた。24日も下げ止まらず、前日比1.5%安と終値で6月15日以来の安値を更新したが、25日は反動で買い戻され、2.1%高と5日ぶりに反発して取引を終えている。今週は1日に9月のCPIが発表される予定。外部要因では中国の9月の公式製造業PMIと財新製造業PMIが注目されそうだ。

▼指数チャート

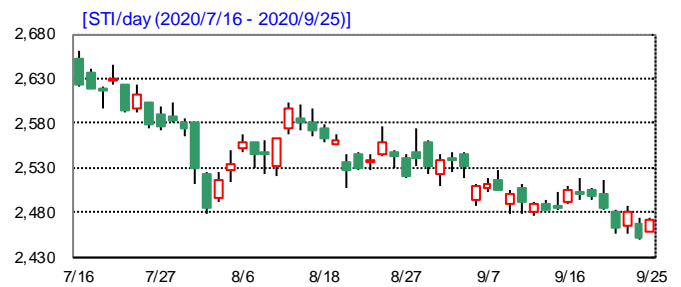


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.0%安、8月の鉱工業生産はエレクトロニクス部門が好調

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.0%安と反落。外部要因が指数下落を主導した。週前半は欧州を中心に新型コロナウイルスの感染再拡大に対する危機感が強まった影響で売られ、22日まで4営業日続落。23-24日はNYダウの反発と反落に連動した不安定な値動きだった。25日は前日に発表された8月の鉱工業生産がエレクトロニクス部門の急回復で前年同月比13.7%増と市場予想から大幅に上振れた効果で買い戻されて引けている。今週は2日の取引終了後に9月の製造業PMIが発表される予定。外部要因では中国の製造業PMIのほか、EU臨時首脳会議や米大統領選討論会の内容も意識されそうだ。

▼指数チャート

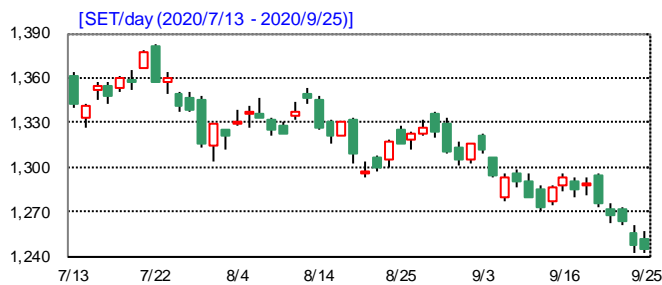


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 3.4%安、反政府デモの長期化で5日続落

SET 指数は週間で 3.4%安と反落。長期化する反政府デモが嫌気され、週初から5日続落した。21日は前週末にバンコクでプラユット政権の退陣や王室改革を求める集会が開催されたことが投資家心理を冷やし、指数は前営業日比1.0%安と反落。23日は中央銀行による金融政策決定会合後の声明で、今年の経済成長率見通しが6月時点でのマイナス8.1%からマイナス7.8%に上方修正されたものの買い材料視されなかった。24日は前日のNYダウが大幅反落した流れで売られ、前日比1.3%安。25日は終値ベースで4月17日以来の安値を更新して取引を終えた。今週は30日に8月の鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.2%高、FTSE 世界国債インデックスへの残留決定を好感

クアラルンプール総合指数は週間で 0.2%高と続伸。週末の反発が奏功した。週初の21日は、前週末のNYダウが続落した流れで売られ、指数は終値で6営業日ぶりに1500ポイントを割り込んだ。22日は反発したものの、23日は8月のCPIが6カ月連続で前年の水準を下回った影響で再び反落。ただ、24日は金融株の下落をゴム手袋メーカーのトップ・グループとハルタレガの上昇で補い反発すると、25日はFTSE世界国債インデックス(WGBI)の対象国として、前年に続き除外検討国ながら残留が決定したことが好感され、続伸して引けている。今週は28日発表の8月の貿易統計に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート

